

令和6年度 障害者差別解消支援地域協議会（記録）

日時：8月22日（木）15時～16時30分

会場：奄美市役所5階会議室

参加：27名（地域の事業者、障害者団体、人権擁護委員会、弁護士会、行政）

1) 参加者自己紹介

2) 趣旨説明

3) 情報提供

① 鹿児島県における直近の相談及び合理的配慮について（資料あり）

障害者くらし安心相談員 葛原 香氏

「大手スーパーマーケットからの問い合わせ」

- ・電動カート利用者の入店について

② アンケート報告（資料あり）

- ・奄美大島地区の各商工会、商工会議所の協力で調査を実施（39件回答）
- ・8割が障害者差別解消法の改正について知らない
- ・知的障害や精神障害の方への対応についてどうしたらいいかわからない

4) グループワーク「改正法を知ってもらう、取り組んでもらう工夫」

改正法を知ってもらうために出来ること
<ul style="list-style-type: none">・環境整備はコスト面ですぐの対応は難しいが、まず合理的配慮を知ってもらうこと・ヘルプマークが島ではあまり普及していない、ポスターを貼る、わかりやすい漫画をつけるなど行政がもっと周知する・精神や知的障害の方への対応が難しい場合がある。そういうときどこに相談したらいいかわからなかった。接し方や配慮の工夫など講話や研修があるとよい・行政が企業等に出向いて研修を行う・福祉部以外の部署にも横断的に周知していく
取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none">・企業では障害者差別解消法について以前からパート、アルバイト、正社員全員に対して教育プログラムを実施している・車椅子のお客様については商品を取るのが難しい等の対応について社内で勉強している・事業計画に入れて従業員への通知をしている。直接お客様からの希望をお聞きすることもあるが、車椅子を扱う貨物部署やそれ以外の従業員にも周知をしている。・雨の日駐車場が利用できないことがあって当事者がビックツーさんへ相談、障害者駐車場の趣旨説明をするCDを流す対応いただき、当事者以外が使うことが減った。・スカイマークでは2019年リフターを導入し、車いすごと入れるようになった。・合理的配慮とっていなかったが、普段から同じようなことができている。（住用・宇検）

- ・観光案内所などいろんな方が来るところでも近くのバス停を口で案内するだけでなく、スタッフが一緒に行くなど心遣いをしている。
- ・車椅子の方が乗船のとき雨が降ったら傘をささなければならない。スタッフが傘をさしている。
- ・業界団体からそれぞれの事業者へ周知している
- ・レジャーサポートなどイベントでの周知をしている

5) 講話「事例で考える障害者差別解消法」(資料あり)

鹿児島県弁護士協会 そらうみ法律事務所 青松 淳紀氏

6) 参加者からの提案等

◎避難時の合理的配慮について知りたいこと、考えてほしいこと

- ① いざというときに障害のある人が体育館以外の空き教室を使えるのか
- ② 行政は学校側がどのような対応をとるのか把握しているのか
- ③ 各地域で障害者の避難時の合理的配慮はなされているのか、特に学校でどのような対応をなされているのか
- ④ 民間は避難先として受け入れてもらえるのか

(理由)

・学校での避難場所は体育館であるが、障害者の中には集団やいつもと異なる環境下の場面で大半がパニックを起こしたりするので、保健室や他の空き教室を避難場所として確保してほしい。6月の大島支庁主催の障害者地域意見交換会や市長と触れ合い対話でも伝えている。5月に奄美市ではペット同伴避難に関する協定というのが締結され3か所専用避難所が規制された。ペットを家族同然に思われている方には申し訳ないが、障害者よりペットが先だったのかと少し悲しい思いがあった。ただし良い方向に変化する勢いが奄美市にはあるので、障害者の別室避難が実現できたらとお願いしている。器物や備品を壊されたり、長引いた避難所生活で学校再開に関して不都合が出るなど学校側が危惧する点も理解できる。

・行政頼みにならず日ごろから備え、防災知識を得るための研修会の実施、NTT ドコモの災害医療スマホの活用、防災出前講座でハザートマップの使い方をマンツーマンで教えてもらう等、他にも福祉避難所や自宅の標高を確認、器物破損には損害保険に入るなどをしている。いざというときにこの人は障害者とわかるように「ヘルプカード」も申請するように会員には伝えている。地域の人にも協力してもらいアンケートをつくってもらった(障害者がどういう不満を持っているのか、どういう願いがあるのか)。アンケートの活用や自助、共助努力はしているつもり。言い続けているとありがたいことに社会福祉協議会と協定を結ぶ提案があり話を進めている。言い続けてよかったと思っていることの一つ。

◎情報のバリアへの合理的配慮について

図書館でバリアフリー図書コーナーがあって嬉しかった。知的障害の方でも見やすいように大きな本やエルエルブック（スウェーデン語でやさしく読めるという意味）が置かれていた。

【本協議会へ参加した感想】

・身体障害の方については想定して対策を設けることができるが、知的障害や精神障害の方に対してどうしたらいいのだろうということについて助言をいただけたので実行していきたいと思う。講話では事例を通して知ることができた。従業員とも共有していきたい。

・「思いやり」というところだけの動きがあったのかもしれないという点に気づいた。障害者の方の思いや、対応の仕方、しっかり勉強できるのは社会的にも素晴らしい事だと思う。事業所の方でもスタッフと、法律で決まっていることをもっと周知徹底していきたい。

・飛行機乗降の整備については、都市部と地域の格差もある。奄美は高齢や障害で車椅子を使われる方も多く課題であった。この会に参加して、リフターの導入も進めることができたので参加してよかったと思っている。（講話で話のあった）他社の事例が公に問題になったが、ちょうどその時は対策や整備について過渡期であった。

以上